

Are Japanese junior high school students READY to leave school?

—首都圏平成19年度公立高校「英語」入試問題の「注」を通じて—

甲斐 順

1. はじめに

平成19年度の高校入試も終わりました。「英語」入試問題も出題に工夫が見られるものの、語彙に「注」を多数つけざるを得ない状況が続いています。甲斐(2007)は、首都圏平成18年度公立高校「英語」入試問題の「注」を通じて、現在の英語教育が抱える問題を浮き彫りにしています。その中で甲斐は、入試問題に「注」が付される理由を主に2点ほど挙げています。1つは、中学校学習指導要領で語彙(特に必修語)が制限されている点で、もう1つは、各県で採択している数種類の教科書に共通する語彙を基準にして、入試問題を作成している点です。そして、語彙頻度の観点から、中学生に必要な語彙の基準作りをするように訴えています。

拙稿では、平成19年度の首都圏(1都6県)の公立高校「英語」入試問題の「注」を通じて、中学生が学ぶ語彙の問題を改めて考えてみたいと思います。なお、副題に「平成19年度」をつけましたが、拙稿では折に触れて平成18年度の「注」について触れることをご了承ください。

2. 平成19年度首都圏公立高校「英語」入試問題の「注」

表1は、平成19年度首都圏公立高校「英語」入試問題に「注」が付されていた語句とその個数を出題

順に示したものです(実際の入試問題には、英語と日本語の両方が記載されていますが、紙面の関係で日本語は省略しています)。

表からわかりますように、「注」の個数は、東京33個、神奈川31個、千葉67個、埼玉23個、茨城15個、栃木22個、群馬30個となっています(千葉Kinkaku-ji, the Golden Templeで、Ginkaku-ji, the Silver Templeでそれぞれ1個)。ちなみに、平成18年度は、東京37個、神奈川28個、千葉41個、埼玉23個、茨城15個、栃木24個、群馬25個で、対前年比、東京-4、神奈川+3、千葉+26、埼玉±0、茨城±0、栃木-2、群馬+5となっており、千葉の増加が際立っています。

茨城の「注」の個数が他県と比べて少ないのは、NEW HORIZON(以下NH)1種類の教科書しか全県で採択しておらず、NHで使われている語彙をすべて使用できるためです。ちなみに、中央教育研究所(2006)によれば、NHで使用されている総語数は947語です。したがって、この総語数947語に含まれない語が、実際の茨城の入試問題では「注」の扱いを受けています。例えば、大問3で、grandfatherが「注」になっています。中央研究所の調査によると、grandmotherはNHで使用されているだけに、類推可能なgrandfatherの「注」扱いは奇異に映りますが、これが日本の英語教育の実態です。

表1. 平成19年度首都圏公立高等学校「英語」入試問題の注の語句とその個数

都県名	注がつけられている語句(総数)
東京	go cycling, weather forecast, peach, take good care of ~, blossom, leaves, ready, vegetable, prepare, ingredient, such as ~, choose, a piece of ~, roll, into a cone shape, introduce, be able to ~, neighbor, treat ~ to ..., carpenter, plane a piece of wood, professional, keep on working, come up to ~, experience, be proud of ~, be moved, architect, probably, come true, significance, job site, design (33個)

神奈川	umbrella, schoolyard, lost ~, Anyway, counted ~, fireflies, number, apple pie, airport, chapters, read ~, same ~, uncle, college, festival, was very impressed by ~, <i>wadaiko, the only picture Kate brought to Japan, stage in front of ~</i> , grandmother, Welcome to ~, in the middle, son, believe ~, taught ~, I'm sorry to hear that., visit, introduce ~ to ..., <i>On her way home</i> , excited, sound (31個)
千葉	report, pollution/polluted, lake, swim, COD, measure, degree, source, natural, industrial, waste, have an influence on, total, mayonnaise, shampoo, soy sauce, cooking oil, drain, bathtub, clean enough for fish to live in, reduce, some day, wastewater, careful, ALT, on his first visit to Kyoto, Kinkaku-ji, the Golden Temple, Ginkaku-ji, the Silver Temple, be covered with, gold, be impressed with, soon, a lot, at last, be surprised, go on a field trip, play catch, miss, dinosaur egg, stone, model, go for a walk, Dad, move away, miss, lily, give off, sports meet, be excited, cheer for, 100-meter dash, race, the Museum of Nature and Science, pamphlet, ticket, cheaper, separately, dollar, in total, save, pay, camp, news, a.m., p.m., adult, free/for free (67個)
埼玉	comic story, funny, laugh, sense of humor, unique, stage, a fan and a towel, play many roles, imagine ~, success, memorize, each other, welcomed ~, is pronounced, the same as ~, death, ending in ~, special way, tea ceremony, wore ~, grass, four-leaf clover, until ~ (23個)
茨城	a long way from ~, It takes ~, fold(ing) paper cranes, grandfather, broke my leg, collected trash, cousin, on business, departure, see ~ off, tear(s), cafeteria, pointed to ~, laughed, for a while (15個)
栃木	ancestor, ship, amusement park ride, home run, miss, alone, get hurt, worry about, get angry, Chinese character, himself, pocket, champion, MVP, daughter, public bath, reason, even if ~, temperature, dry, fever, weak (22個)
群馬	cheerfully, smile, win, museum, material, history, Charlie Chaplin, comedy, humor, lives, relax, forget ~, develop ~, way, make a speech, same, space, realize ~, respect ~, astronaut, useful, communicate, make a decision, activity, mind and body, astronomical observatory, telescope, staff member, explain ~, the earth (30個)

3. 複数県で「注」となっている語句

表1から、重複して用いられている語彙が複数存在することがわかります。例えば、千葉に miss が2個ありますが、これは小問毎に違う日本語訳がつけられているからです。一方は「～を捕りそこなう」(大問5(2))で、もう一方は「～がいなくなって寂しい」(大問5(3))という訳語が与えられています。千葉は、*NH*, *TOTAL ENGLISH (TE)*, *COLUMBUS 21(CO)*, *SUNSHINE(SS)*, *ONE WORLD(OW)*

の5種類の教科書が採択されていますが、*SS*と*TE*ではmissが扱われていないため、この2種類の教科書で学習してきた受験生に配慮して「注」が付されています。missは、栃木の*大問5*でも、「～がいなくてさびしく思う」という訳で「注」がついています。栃木では、*NH*, *SS*, *NC*の3種類の教科書が使用されており、*SS*, *NC*には動詞の意味のmissが記載されていないため、「注」が付されているようです。ちなみに、栃木では、*大問3*の選択肢に

communicationが「注」も付されずに出題されていますが、上記3種類の教科書すべてで記載されているため、「注」扱いになっていません。

この他に重複している語は、introduce (東京・神奈川県), same (神奈川県・埼玉・群馬), stage (神奈川県・埼玉), humor (埼玉・群馬), laugh (埼玉・茨城), welcome (神奈川県・埼玉), 「訪問」(名詞)のvisit (神奈川県・千葉), way (神奈川県・埼玉・群馬)を挙げることができます。これらの語の中には、語句の形で「注」が付されているものもありますし、1語単独で「注」になっているものもあります。重複して用いられているということは、それだけ必要な語であるといえるかもしれません。

大学英語教育学会が、British National Corpus 1億語を基準として、日本人の英語学習を反映したサブコーパスを基に作成しているJACET8000によると、それぞれの語の頻度の順位は、次のようになっています。miss (706位) introduce (748位), same (142位), stage (586位), humor (1873位), laugh (553位), welcome (949位), visit (381位), way (85位)。1000位までが中学校卒業レベル、2000位までが高校初級レベルですから、ここに挙がっている単語はhumorを除くとすべて中学校卒業レベルということになります。ちなみにhumorは6種類の教科書すべてで使用されていません。

4. 同一県で2年連続「注」となっている語句

同一県で、2年連続で、「注」となっている語(句)もあります。take care of (東京), number (神奈川県), be surprised (千葉)の3つが該当します。平成18年度の教科書で、これらの語(句)を見てみますと、take care ofはCOの教科書を除く5種類の教科書で、numberはOW以外、be surprisedはNH以外の5種類の教科書で、それぞれ使用されているにも関わらず、入試問題で「注」扱いです。

5. 前指導要領の必修語で、「注」となっている語

前指導要領で必修語となっていた語を、東京から群馬の順で挙げていきます(重複する語を除く)。ready, introduce, plane, read, same, uncle, college, son, visit, lake, swim, soon, news, until, worry, daughter, smile, forget, way, usefulの20語になります。このうち、planeは「～にかんなを

かける」の意味で用いられていますので、除外して検討します。先ほどと同様に、JACET8000の順位を見ますと、次のようになります。ready (684位), introduce (748位), read (233位), same (142位), uncle (1471位), college (707位), son (414位), visit (381位), lake (1177位), swim (1580位), soon (310位), news (543位), until (235位), worry (723位), daughter (662位), smile (384位), forget (563位), way (85位), useful (1022位)。swimの頻度が意外と低いのに驚きますが、それでもほとんどの語が、中学校卒業レベルに相当し、その他の語も高校初級までの語であることがわかります。

6. 6種類の中学校教科書に基づく頻度数

ここで、第3節から第5節で触れた語句を、平成18年度から使われている中学校英語教科書中、何種類の教科書で扱われているかを、「頻度」で示してみます。6種類の教科書すべてで扱われていれば頻度6、5種類であれば頻度5、以下同様となります。表2が頻度と「注」の語句をまとめたものです。

表2. 6種類の教科書に基づく第3節から第5節の「注」の語句の頻度数

頻度	「注」の語句
6	same, way, soon, news, worry
5	welcome (問投詞), take care of, be surprised, read (過去形), swim, until, forget, useful
4	ready, college, son, lake
3	miss, visit (名詞), uncle, smile (動詞)
2	introduce, laugh, daughter
1	stage
0	humor, welcome (動詞)

表2からわかるように、大半の語句が頻度4以上です。高頻度にもかかわらず、「注」が付されるのは、拙稿の冒頭でも触れましたので繰り返しますが、語彙制限と教科書採択の種類の数に大きく依存しているためです。中学校学習指導要領で、必修語が507語から100語になったことについて、村田(2002)は次のように述べています。

いわゆる「中学必修語」は100語となった。初習である中学の教科書はどのように編集しても実際には400～500語ぐらいの共通語彙は見込めるので、100語にしても教科書編集や入試問題作成上の障害は出ないが、語彙の学習を軽んずる方向への心理的な影響は大きいと言わざるを得ない。(p.21)

7. 必修語100語の重み

平成19年度の東京の大問3に、「ready 準備ができた」という注が付されています(文脈は OK, dinner is *ready.)。これまでに見てきたように、この語は、前学習指導要領(それ以前の指導要領でも)で必修語として取り扱われていました。前節で触れましたように、readyは頻度4です。NHとTEで扱われていないため、これら2種類の教科書で学習してきた受験生が不利にならないように、「注」が付されているのでしょうか。しかし、readyは、問題文で使うような表現の他にも、「Are you ready?」「I'm ready.」「Ready?」のようによく耳にする表現です。readyにまで「注」を付している現状は果たして望ましいといえるのでしょうか。

次のやり取りは実際の教室であった出来事です。

私: Are you ready?

生徒: No, I'm man.

私が発したreadyをレディ(lady)と聞き違えた男子高校生が「私は男です」と答えたものです。教室中が大笑いしていましたが、本当は笑えない話です。

教科書の語彙の使用について、従前に比して現行の学習指導要領では、かなり自由度が高まっている。教科書会社は、教科書の作成にあたって、中学生が学習すべき語彙として、どのような語をどの程度どのような基準で選定するかが問われるようになってきている。

中央教育研究所(2006, p.7)

教科書の自由度が高まっていることは、教科書を編集する立場の方、幅広い題材に触れさせる機会を提供するという面からすれば、歓迎されるべきことかもしれません。しかし、必修語が100語となった

ことで、日本人中学生は最低100語だけ知っておけばよいことを表しています。あとの800語程度は教科書編集会社に委ねられており、その責任は相当重いといえるとでしょう。

2006年(平成18年)12月22日から施行された改訂教育基本法の第5条第2項は、次のように謳われています。

義務教育として行われる普通教育は、各個人の有する能力を伸ばしつつ社会において自立的に生きる基礎を培い、また、国家及び社会の形成者として必要とされる基本的な資質を養うことを目的として行われるものとする。

現行の学習指導要領で英語を学習している、あるいは学習してきた日本人中学生・高校生は、本当に日本国憲法で保障され、教育基本法で謳われている義務教育を終了できるレベルに到達しているのでしょうか。readyにすら「注」を付さなければいけない今の日本の英語教育は、異常事態だと思います。「注」をこれ以上高校の入試問題から増やさないためにも、次の指導要領改訂を注視していく必要があります。

参考文献

- 相澤一美・石川慎一郎・村田年(編)(2005)『「大学英語教育学会基本語リスト」に基づく JACET8000 英単語』 桐原書店
- 甲斐順(2007)「中学生が学ぶ必修語彙数は少なすぎないか?—一首都圏平成18年度公立高校「英語」入試問題の「注」を通じて—」『英語教育』2007年3月号. pp.44-47. 大修館書店
- 中央教育研究所(2006)『平成18年度版 中学校英語教科書における語彙調査』中央教育研究所
- 村田年(2002)「新指導要領の語彙制限がもたらすもの」『英語教育』2002年2月号 pp.20-22. 大修館書店

(神奈川県立有馬高等学校教諭)